

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 岩井 茂樹					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	前近代の外交と文書資料										
【授業の概要・目的】											
<p>中国では官府の保存公文書を「案巻」などと称していた。清朝時代にはあらたに「档案」という用語が使われるようになった。案巻や档案は史書や地方誌の編纂のさいに利用されることはあったものの、朝廷の内閣大庫や地方官衙の架閣庫などに保管され、公開利用などの制度はなかった。1920年代末に内閣大庫の档案が市中に流出する事件が起こってから、あらためてその価値が認識され、保存措置が講じられるとともに、1930年代以降、中央研究院などによる組織的な研究が開始された。今日にいたるまで中国・台湾ですすめられた档案資料の整理・出版は、档案資料の利用におおきな利便をもたらしている。</p> <p>一方、日本では外国との文書のやりとりのさいに前例を参照する「勘文」の手続きがおこなわれ、その必要から記録が作成された。また、漢文による外交文書を作成するうえでの便宜から過去の文書例を編纂することがおこなわれた。</p> <p>このようにして伝存した#27511史資料を利用するための知識と、そこから得られる情報の分析の方法について学ぶ。</p>											
【到達目標】											
前近代の外交文書について基礎的な知識を把握するとともに、公文書に独特の語彙や句法を理解して、訳読ができるようになることを到達目標とする。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.中国における案巻，#27284案の形成とその利用について（第1週） 2.日本と琉球における対外関係資料の整理と伝存の状況について。（第2～3週） 3.17世紀以降の日中交渉にかかわる資料の紹介と選読（第4～10週） 4.使琉球録の概要および選読（第11～14週） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末にレポート試験をおこない、成績を評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
資料を配付するので事前に目を通しておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											